

# 学生ボランティアによる学習ルームへの支援活動

繪内利啓, 宮前義和, 長谷川順一, 森 俊博\*, 光村拓也\*, 出石良美\*\*

(附属教育実践総合センター LD 及びその周辺児への教育支援研究プロジェクトチーム)

(\* 教育学研究科院生) (\*\* 高松市屋島小学校)

760-8522 高松市幸町 1-1 香川大学教育学部

## Participation in Support of the Resource Room by Student Volunteers

Enai Toshihiro, Miyamae Yoshikazu, Hasegawa Junichi,

Mori Toshihiro, Komura Takuya, Izuishi Yoshimi

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要旨** 我々は学習障害や注意欠陥 / 多動性障害をもつ児童への教育的支援を目的として、過去4年間研究プロジェクトに取り組んできた。本プロジェクトでは学部学生を需要のある教育現場に派遣し、我々が巡回相談という形で、後方支援するという体制をとっていたが、2年目の需要が拡大し過ぎたため、3-4年目には屋島小学校での放課後オープン教室に学部学生が参加協力し、必要に応じて我々が個別相談を行うという方式で研究プロジェクトを継続した。特にオープン教室への学生参加については、新しい試みであり、2年間にわたって保護者等にアンケート調査を行い、その結果を併せて報告した。

**キーワード** 学習障害, LD, 特別支援教育, オープン教室, 学生ボランティア

### 1. はじめに

我々は、平成11・12年度には「学習困難児への教育支援研究プロジェクト」として、さらに平成13・14年度には「LD児及びその周辺児への教育支援研究プロジェクト」として、4年間にわたって学習上の困難を有し、特別な教育支援を必要とする児童・生徒への具体的支援方策を探るための研究活動を継続してきた。その過程で、平成12・13年度に文部省による「学習障害児に対する指導方法等に関する実践研究」が香川県を含む15都道府県で実施された（平成13・14年度には残りの府県で実施）が、本プロジェクトチームからも、繪内と宮前が調査研究運営会議および専門家チームの一員として参画し、

屋島小学校への巡回相談事業に携わった。

また、附属坂出幼稚園および小・中・養護学校で構成される附属坂出学園でも、平成12・13・14年度の三年間、文部科学省から「異校種間の教員の協力指導を通して、幼稚園・小学校・中学校の一貫教育を目指した『生きる力』を培う教育課程・指導方法の研究開発」の指定を受けた。その中で、「学習困難児の学習指導法の開発」が教育支援部会としての研究テーマとなり、本プロジェクトチームの人員も大半が教育支援部会の構成員と重なることから附属学園への研究開発に全面的に協力することになった。

屋島小学校では、平成13年度で調査研究指定が終了したが、研究指定を受けたことを契機に平成13年度から始めた昼休み・放課後における

オープン教室「学習ルーム」を平成14年度にも継続することが、保護者の希望などを踏まえて決定された。そこで、本研究プロジェクトでも「学習ルーム」への支援活動として学部学生の参加をさらに発展した形で継続するとともに、我々による巡回教育相談を必要に応じて行うこととした。本稿では、2年間の屋島小学校「学習ルーム」への学部学生による支援活動を報告し、若干の考察を述べる。

## 2. 学習ルームの取り組み

屋島小学校は、高松市の東北端に位置し、現在児童数は約700名で、通常の学級20学級、障害児学級2学級の大規模校である。屋島小学校では研究指定校となった平成12年度の取り組みと独自に行った実態調査から、担任による「気になる児童」は低学年に多く、特に「集団の中で集中して話が聞けない」、「会話が一方的で話題が飛びやすい」、「音読が苦手である」、「文字や行をとばして読む」、「枠の中に字が入らずにはみ出す」などの問題点があげられていた。これらの児童たちは同級生からも注意されが多く、自信や意欲をなくしがちであると報告されていた。そこで、これらの「気になる児童」たちを中心に誰もが自由に参加でき、学ぶことの楽しさ、わかることの喜びを体験できる場を提供するという趣旨で、研究指定第2年次である平成13年度に「学習ルーム」が設置された。

従って、「学習ルーム」はいわゆる学習障害（として判定された）児に限定したものではなく、また国語・算数の教科につまずきを感じている児童ばかりでもなく、参加を希望する児童全員に開放されたわけである。ただし、まず

「気になる児童」として、主として学級担任により、2年生の10名が選ばれ、保護者の承諾を得て、定期的に参加することになった。彼ら10名については個別の指導計画（IEP）が作成された。また、「学習ルーム」での様子について、学習ルーム担当の教員（障害児学級担任）と学級担任との連絡のために「個人カルテ」が作成された。個人カルテには「学習ルーム」担当の教員によつ

て児童の月ごとの実体や変化の様子が記載され、それに応じて指導方針の修正がなされた。彼ら以外の2年生については自由参加（保護者の希望あるいは本人の希望）であり、必要のない限り、IEPの作成は行っていない。

なお、「学習ルーム」開設に先立つ平成13年度初めに、筆者は学習困難児に関する啓発的講演会を同小学校の保護者に対して行い、「学習ルーム」の趣旨を説明するとともに、子供の学習についての不安・心配に関するアンケートを実施して、心理検査（WISC-ⅢおよびK-ABC）や個別相談の希望を募った。その結果、WISC-Ⅲ、K-ABCなどの心理検査を希望して実施したものは5名であった。

「学習ルーム」は絨毯張りにした空き教室を利用し、活動中の立ち歩きも会話も自由にできる。開設時間帯は、月、水、金の週3回の昼休みの時間帯と放課後（5または6時限）である。教科は国語と算数であり、参加人数は、平成13年度1学期当初は2年生が常時15～20人であり、さらに同年度の2学期からは1年生にも参加を呼びかけ、最多で30～40人の児童（2回以上参加した児童数39名）が参加することになった。

2年目の平成14年度には、参加児童数は飛躍的に増加し、1年生86名（1年生児童数137名）、2年生16名（2年生児童数138名）の計102名（継続参加している児童）となった。そこで、1年生は人数が多いため、およそ30人ずつの3つのグループ（A、B、C）に分け、2年生を1つのグループとして、月・水・金曜日のうち1年生は週に2日、2年生は週に3日実施することにした（表1）。なお、月・水・金曜日とも昼休みに、低学年（対象者を限らない）に「学習ルーム」を開放し、7名前後の児童が参加した。

## 3. 学生の参加

学習ルームの運営は、本モデル事業における屋島小学校校内委員会の構成員であり、専門家チームのメンバーでもある障害児学級担当教員があたり、1年生担任が交代でこれを補助した。開設当初の平成13年5月から、本学部学生1名

(4年)が火曜と金曜の昼休みと6時限の指導に参加した。また、2学期からは、参加児童が増加し、学校側の要請もあって、参加学生を2名に増員し、3学期後半からは次年度の引継のために、さらに学生2名(3年)がこれに加わった。

平成14年度には4グループ、3教室での運営ということもあって、障害児教育コース3名以外に、同大学院生2名および教科教育コース数学領域4名の計9名が参加した。

表1 学習ルームの曜日と時間帯

教室 曜日	第二図書館	低学年音楽室	学習ルーム
月 5 時 限	1年生 Aグループ 教師 1名 学生 2名	1年生 Bグループ 教師 1名 学生 1名	1年生 Cグループ 教師 1名 学生 1名
月 6 時 限			2年生 教師 1名 学生 1名
水 6 時 限	1年生 Aグループ 教師 1名 学生 4名		2年生 教師 1名 学生 2名
金 6 時 限		1年生 Bグループ 教師 1名 学生 4名	1年生 Cグループ 2年生 教師 1名 学生 5名

#### 香川大学教育学部学生ボランティアの内訳

教科教育コース数学領域3年生	4名
障害児教育コース4年生	3名
大学院教育学研究科障害児教育専攻	2名

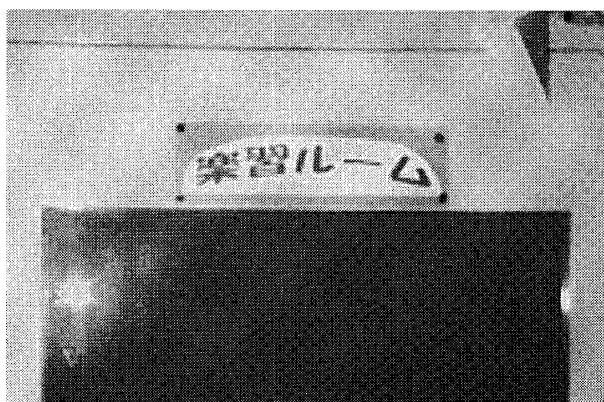


図1 「学習ルーム」の入り口

楽しく学習することを目的にしていることから、「学習ルーム」の「学」を「楽」にしている。

## 4. アンケート調査の実施

### [目的]

学習ルームへの学生の参加は、学校側には好意的に受け入れられたという印象を持っているが、実際のところ個々の学級担任の意見を聞き取ったわけではなく、また、保護者についてもどのように受け入れられているかを調査する必要があると思われた。というのは、「学習ルーム」とそれに対する学生参加については、平成12・13年度のモデル事業の一環として始められたものであり、14年度以降も「学習ルーム」を維持するためには屋島小学校への人的援助がなければならない。この人的援助を教育学部学生で補うためには保護者と教員それぞれの意見を抜きにしては考えられないからであった。

### [対象と方法]

#### ・平成13年度

①保護者アンケート：「学習ルーム」が開設されて以来2回以上参加した児童39名の保護者を対象として、「学習ルーム活用についてのアンケート」(資料1)を実施した。設問項目は大きく分けて、(1)子どもたちが「学習ルーム」に参加したことの感想、(2)次年度以降への取り組みについての要望、(3)学生ボランティアの参加協力についての意見から構成された。アンケート調査は無記名方式として、平成14年1月末に対象児童を通じて保護者にアンケート用紙を配布した。

②教員アンケート：「学習ルーム」を利用している1、2年生の学級担任7名(1年4名、2年3名)とその他の学年の担任16名、専科の教員及び教頭など5名の計28名を対象とした。設問項目は、基本的には保護者アンケートと同じとし、(1)受け持ちの児童が「学習ルーム」に参加しての感想、(2)次年度以降の取り組みについての要望、(3)学生ボランティアの参加協力についての意見から構成されている(資料2)。なお、1、2年の担任以外の教員に対しては、(2)、(3)に関してのみ、回答を求めた。アンケートは無記名とし、保護者アンケートと同時期に

行った。

#### ・平成14年度

③保護者アンケート：研究指定は終了しているが、屋島小学校では「学習ルーム」活動を継続することとなり、学生ボランティア参加も、さらに増員されることとなった。そこで、13年度との比較検討のため、①と同じ方式で保護者

アンケート（資料3）を実施した。

対象は「学習ルーム」に継続して参加している児童102名の保護者である。今回は特に11月下旬の2日間で、保護者による「学習ルーム」の参観を実施し、実際に「学習ルーム」を観てもらったうえで、アンケート用紙への記入を依頼した。内容も①とほぼ同じであるが、「学習ルーム」

表2 平成13年度保護者および担任アンケート結果

1-1：学習ルーム参加のきっかけ（複数回答あり）

子供が参加したいといったから					20人
担任に紹介されたから					16
良い試みだと思ったから					10
学習を補いたいと思ったから					13
楽しく学習できるのではと思ったから					15
レベルの高い学習も提供されると聞いたから					0
その日が空いており、埋めるのに都合が良かったから					3
学年やクラスの枠を越えて学ぶことで友達とのつきあいができると思ったから					6
このような取り組みの実現を待っていたから					2
その他					3

1-2 (ア)：学習ルーム参加の印象 (イ)：子供の反応

良かった	35人	89.8%	良かった	29人	74.4%
どちらかといえば良かった	2	5.1	どちらかといえば良かった	8	20.5
どちらでもない	2	5.1	どちらでもない	2	5.1
合計	39人	100%	合計	39人	100%

1-3 (ア)：学習ルームの継続について (イ)：3～6年生までの拡大について

継続した方がよい	36人	92.3%	拡大を望む	30人	76.9%
どちらともいえない	3	7.7	高学年に重点を置いてほしい	1	2.6
継続は必要としない	0	0.0	現状のままでよい	2	5.1
合計	39人	100%	どちらともいえない	6	15.4
合計	39人	100%	合計	39人	100%

1-3 (ウ)：回数の希望について

1-4：次年度参加の希望について

毎日	4人	10.3%	是非参加させたい	21人	53.8%
週3～4回程度	22	56.4	参加させたい	17	43.6
週1～2回程度	13	33.3	どちらともいえない	1	2.6
合計	39人	100%	参加させたくない	0	0.0
合計	39人	100%	合計	39人	100%

2：学生ボランティアの参加についてのアンケート（左：保護者 右：教員）

良いことである	30人	76.9%	良いことである	13人	54.2%
条件次第では良いことである	9	23.1	条件次第では良いことである	11	45.8
参加させるべきではない	0	0.0	参加させるべきではない	0	0.0
合計	39人	100%	合計	24人	100%

2-a：参加はよいことであると答えた理由（保護者30人 教員13人）

教える側の人員が増え、細かい指導が出来るから	24人	13人
大学生であるので、年齢が近く子どもにとって親しみやすいから	19	10
教育学部の学生であるので、子どもの教育や対応がうまくできると思うから	5	1
教員志望の大学生が現場を知るよい機会になると思われるから	14	8
人件費がかからないから	0	1
その他	4	0

2-b：条件次第では参加はよいこととしたその条件（保護者9人 教員11人）

子どもの成績などの個人情報を十分に守ること	5人	9人
大学生というだけでなく、教育学部の学生であり、かつ教育実習を受けたもの	5	1
部外者であるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと	5	8
あくまでも主体は教員であり、学生は補助的な役割を果たすこと	4	3
意欲や資質のある大学生が参加すること	7	11
その他	3	0

ム」を参観しての感想をあらたな設問項目として加えた。なお、参観することができなかつた保護者に対しては、後日、設問項目Ⅰ、Ⅲ、Ⅳに記入してもらうように依頼した。

### [アンケート結果]

#### ・平成13年度

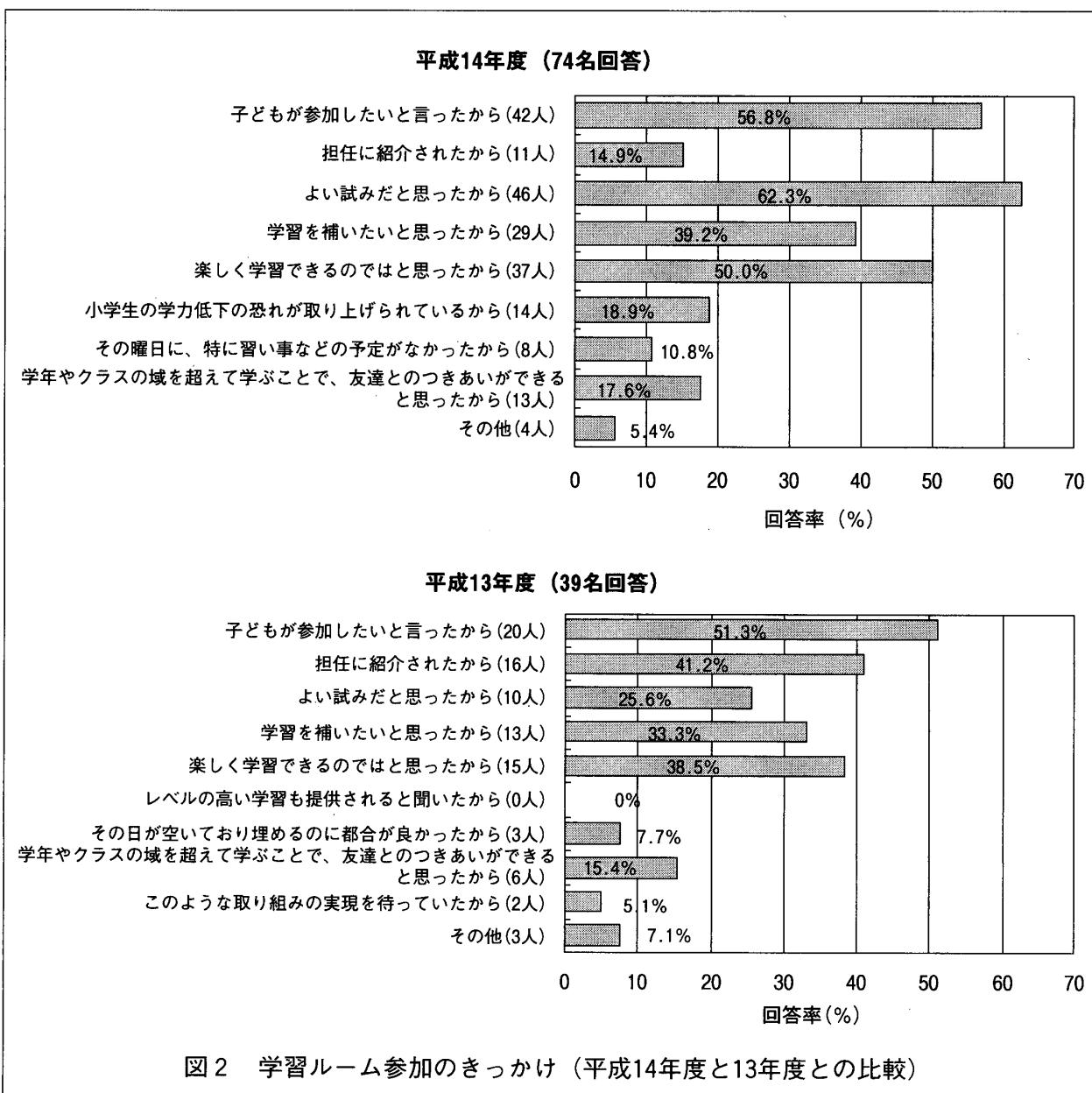
保護者アンケート、教員アンケートとともに回収率は100%であった。表2に保護者アンケートの結果と、教員アンケートの結果の一部を示した。

#### ・平成14年度

保護者アンケートだけの実施であり、対象者

102名中、参観した保護者から53名、参観していない保護者から21名の計74名（回収率72.5%）から回答が得られた。図2からは、平成14年度のアンケート結果と前年度（平成13年度）の結果（表2）とをあわせてグラフ化した。

設問1の「学習ルーム」参加のきっかけについては、74名全員から回答が得られ、「良い試みだと思ったから」が最も多く、46名（62.2%）であった。次いで、42名（56.8%）が「子どもが参加したいと言ったから」、37名（50.0%）が「楽しい学習ができるのではと思ったから」、29名（39.2%）が「学習を補いたいと思ったから」、14名（18.9%）が「小学生の学力低下のおそれ



が問題として取り上げられているから」、13名(17.6%)が「学年やクラスの域を超えて学ぶことで、友達とのつきあいができると思ったから」であった。なお、「その他」には、  
「仕事をもっているため、勉強を見る時間が限られているから>や<いつもと違った空間、先生、友達は刺激があって良いと思ったから>、<一緒に帰宅しているお友達が参加していたため>などの意見があった。

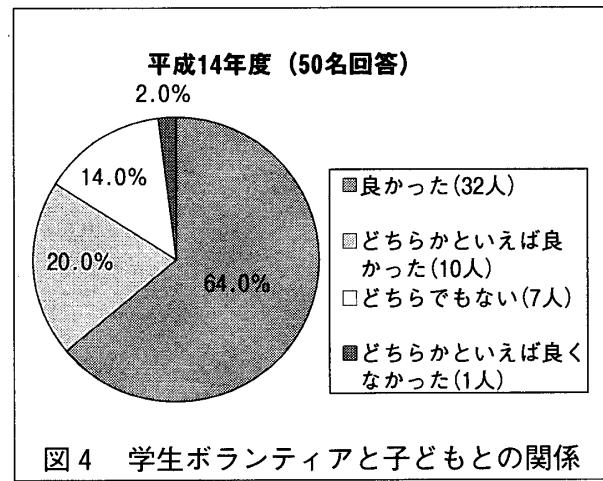
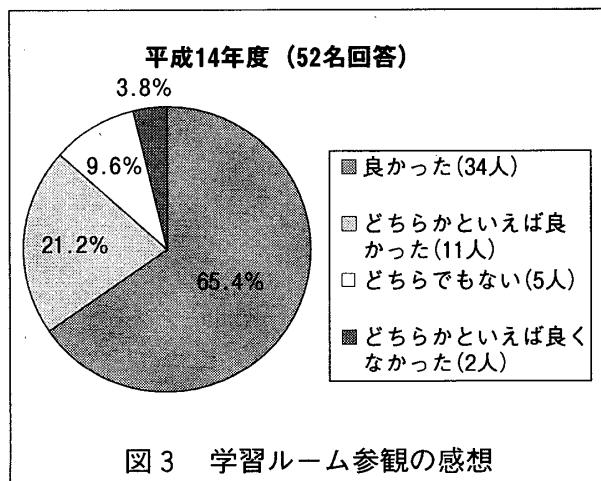
13年度の結果と比べると、「子どもが参加したいと言ったから」「学習を補いたいと思ったから」「学年やクラスの域を超えて学ぶことで、友達とのつきあいができると思ったから」の3項目の回答の割合には、ほとんど変化がみられなかった。13年度より増えた項目は、「良い試みだと思ったから」、「楽しく学習ができるのではと思ったから」であった。特に、「良い試みだと思ったから」は、13年度の25.6%から14年度は62.2%へと最も多くなった。13年度より減少した項目は、「担任に紹介されたから」で、41.2%から14.9%になっていた(図2)。

設問2の「学習ルーム」参観後の感想については、14年度に新たに設けられた項目である。この質問については、参観した52名から回答が得られた。「良かった」「どちらかといえば良かった」「どちらでもない」「どちらかといえば良くなかった」「良くなかった」の5段階評価で回答を求めた上で、どのように良かったか、良くなかったのかの具体的記述を求めた。

「良かった」と回答したのが65.4%、「どちら

かといえば良かった」が21.2%であった。「どちらかといえば良くなかった」は3.8%いたが、「良くなかった」と回答した人はいなかった(図3)。良かったという具体的な内容としては、  
「子どもが楽しく学習できている」という意見が一番多く、  
「ボランティア数が多くて質問しやすい雰囲気だった」、  
「自分のペースで自由に学んでいるのが良かった」との意見も多かった。また、  
「他のクラスの友達ができた」との意見もみられた。「どちらでもない」の具体的な内容としては、  
「思ったより児童の数が多かった」、  
「先生はプリントに丸をつけるだけだった」、  
「遅く来た児童には席がない」との意見であった。「どちらかといえば良くなかった」の具体的な内容としては、  
「ザワザワとして落ち着かない感じであった」、  
「勝手にやって、勝手に終わっている様子だった」という意見があった。

同時に、学生ボランティアとの関係を問うたところ50人の回答が得られた。「良かった」と回答したのが64.0%、「どちらかといえば良かった」が20.0%であった。「どちらでもない」が14.0%、「どちらかといえば良くなかった」は2.0%いたが、「良くなかった」と回答した人はいなかった(図4)。良かったことの具体的な内容としては、  
「子ども達が親しみやすくてよかった」、  
「分からぬところを気軽に尋ねられた」といった意見が多く、年齢が近くて親しみやすい雰囲気を評価していた。また、  
「ちょっとしたことでもほめてくれる」、  
「丁寧に教えてくれていた」との、児童への対応にも注目してい



た人もいた。「どちらでもない」の具体的な内容としては、  
 ＜間違えた時に、声をかける学生と、すっとプリントをもどしてしまう学生がいた＞、  
 ＜プリントが終わるとすぐに帰ってしまうので、あまりふれあう時間がないようだ＞、  
 ＜短い時間だけでは分からぬ＞という意見であった。

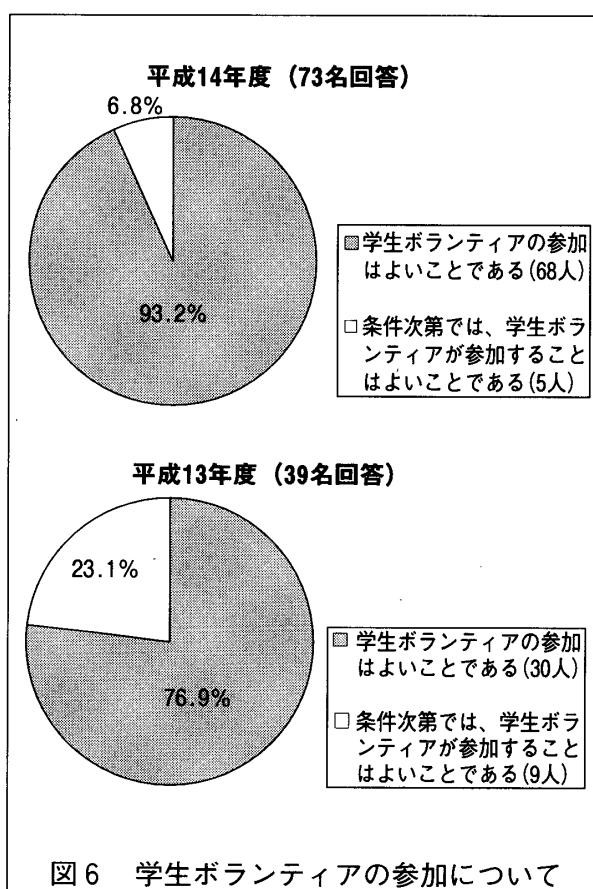
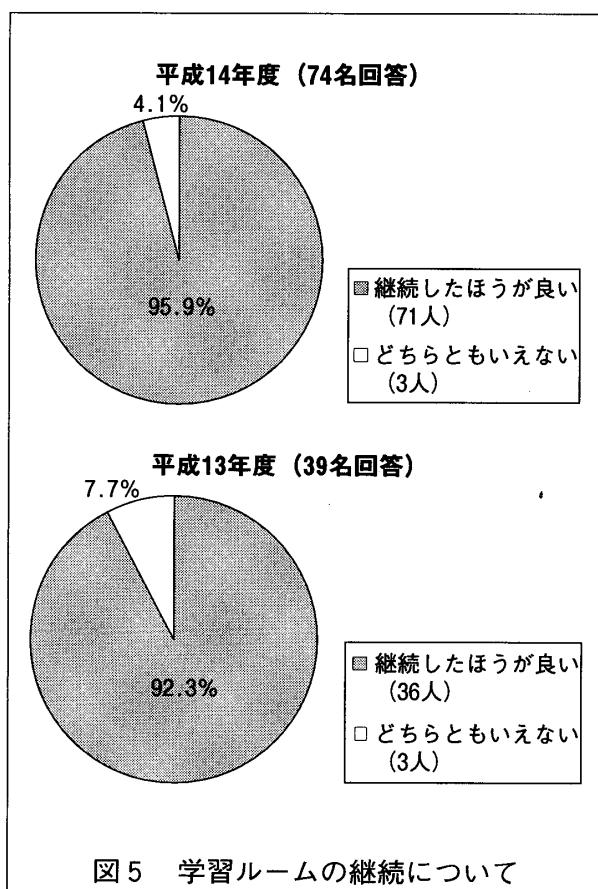
「どちらかといえば良くなかった」の具体的な内容としては、  
 ＜「丸つけ・点数つけ係り」の様で子どもへの積極的な言葉かけが少ないように感じた＞という意見であった。

設問3では、次年度の取り組みについて、「継続したほうが良い」「どちらともいえない」「継続を必要としない」の3段階で、「学習ルーム」の継続の希望をたずねた。「継続したほうが良い」と答えた人は95.9%で、「どちらともいえない」と答えた人は4.1%であった(図5)。「継続を必要としない」と答えたものはいなかった。「継続したほうが良い」と回答した理由は、  
 ＜子どもが楽しんでいる＞といった、子どもの意思、  
 ＜学習の楽しさを味わうことで、意欲につながると思うから＞などの学習への意欲向上、  
 ＜週5日

制になり、勉強時間も減っているので、少しでもさせたい＞＜両親が働いていると、なかなか勉強を丁寧に教えることができないので＞などの学力補償を理由としてあげていた。「どちらともいえない」と回答した理由は、  
 ＜もう少し落ち着いてできる状態であればするべきだと思う＞、  
 ＜一度の参観では判断できない＞といった理由があった。

以上の結果は13年度と比べても、ほとんど変化はなく、ともに「継続したほうが良い」が90%以上を占めていた。また、「継続を必要としない」と回答した保護者は、どちらともいなかった。

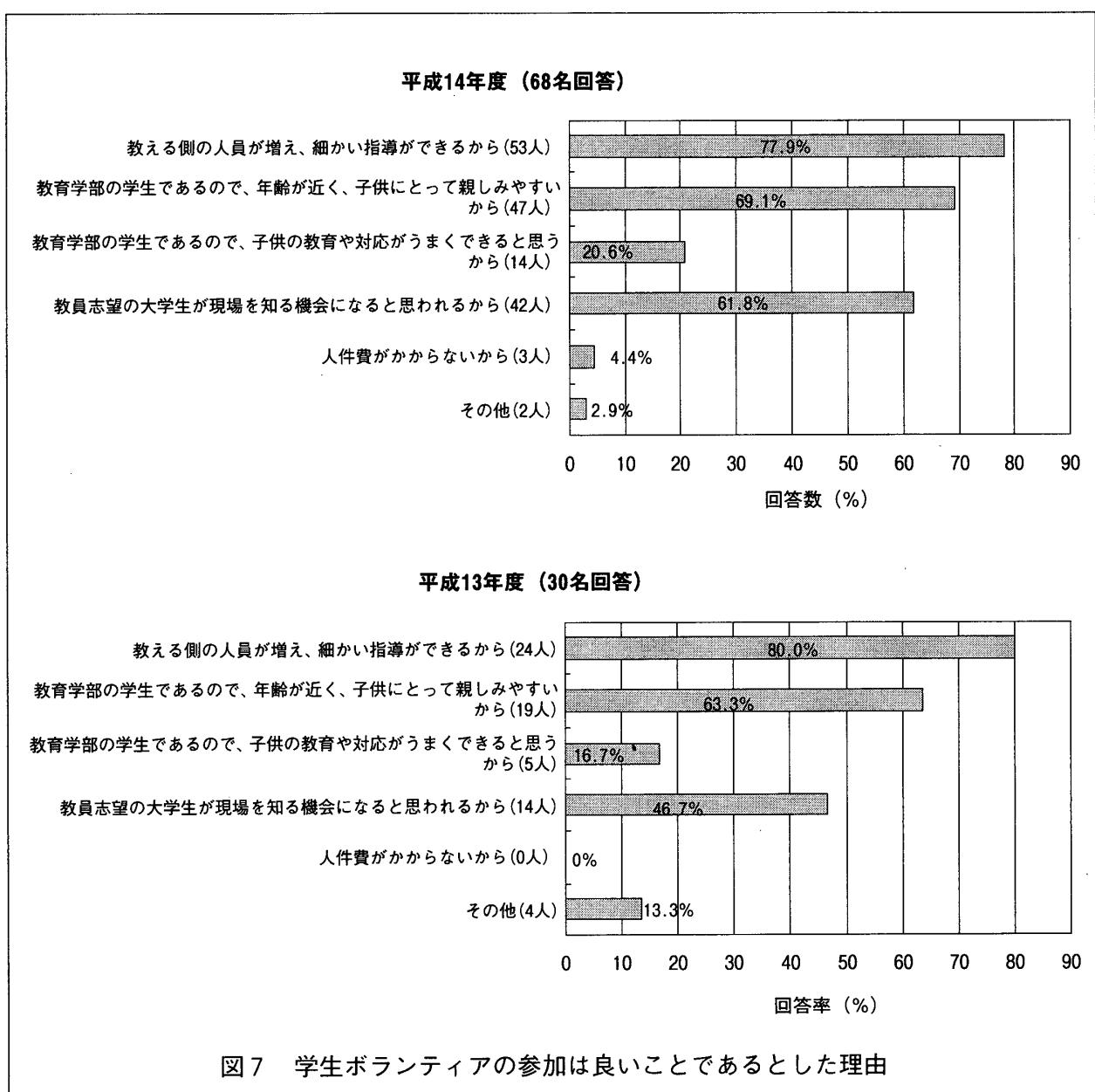
「学習ルーム」への学生参加の是非については、設問4で取り上げた。「学生ボランティアの参加はよいことである」は93.2%で、「条件次第では学生ボランティアが参加することはよいことである」は6.8%であった。「学生ボランティアは参加させるべきではない」と答えた人はいなかった(図6)。13年度の結果と比べて、「学生ボランティアの参加はよいことである」としたもの割合は、約20%増えていた。また、「学生



ボランティアは参加させるべきではない」としたものは、13年度と同じくいなかった。

ついで、「学生ボランティアの参加はよいことである」と答えた68名に対して、5つの選択肢とその他の欄を設け、複数回答可で理由を尋ねた(図7)。最も多かったのは、「教える側の人員が増え、細かい指導ができるから」であり53名(77.4%)であった。次に、「教育学部の学生であるので、年齢が近く、子どもにとって親しみやすいから」が47名(69.1%)、「教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから」が42名(61.8%)、「教育学部の学生であるので、子どもの教育や対応がうまくできると思うから」が14名(20.6%)であった。なお「人件費がかからないから」は3名(4.4%)であった。また、「その他」に回答した人は2名で、<色々な人から教育を受けることにより、色々な方向より問題を解くことを学べるから>、<希望してボランティアに参加しているということは、教えることに意欲を持って指導していると思うから>という理由であった。13年度の結果に比べて、「教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから」が、約15%増えたことと「人件費がかからないから」が、4.4%いたこと以外は、大きな変化はみられなかった。

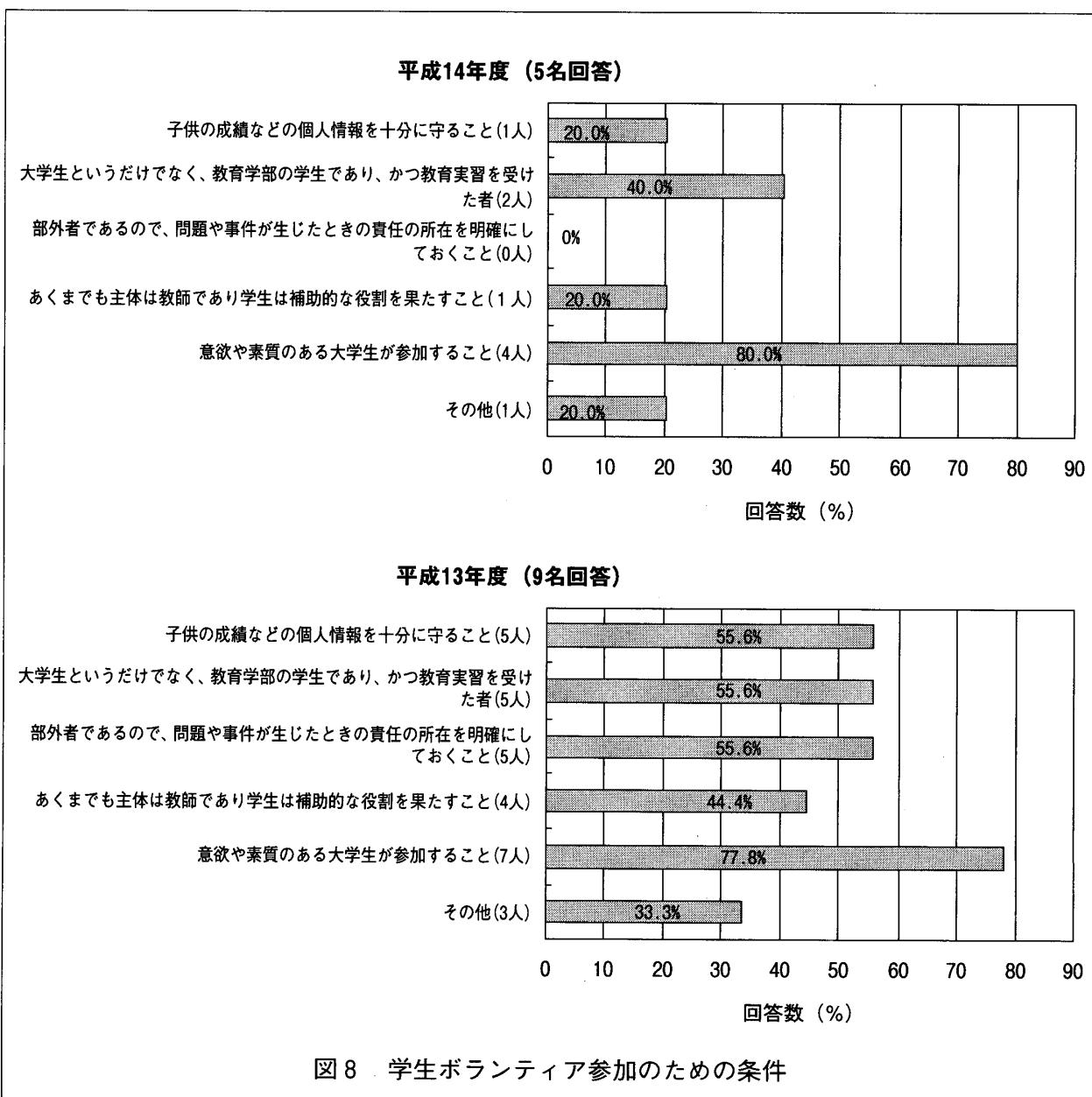
さらに、「条件次第では学生ボランティアが参



加することはよいことである」と答えた5人に對して、5つの選択肢とその他の欄を設け、複数回答可で理由を尋ねた(図8)。最も多かったのは、13年度と同じく「意欲や素質のある大学生が参加すること」で4名が回答した。次に「大学生というだけでなく、教育学部の学生であり、かつ教育実習を受けた者」が2名であった。「子どもの成績などの個人情報を十分に守ること」、「あくまで主体は教師であり、学生は補助的な役割を果たすこと」が1名であった。「その他」に回答した人は1名おり、<教えてくれる人に、先生という基本を忘れない体制であること>という理由であった。

13年度に比べて回答の割合が大きく減った項目は、「子どもの成績などの個人情報を十分に守ること」、「部外者であるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと」、「あくまで主体は教師であり、学生は補助的な役割を果たすこと」であった。特に「部外者であるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと」は、14年度に回答した人はいなかった。

5番目の設問では、来年度の参加希望をたずねた。「是非参加させたい」が45名 (61.6%)、「参加させたい」が25名 (34.3%) で、併せて70名 (95.9%) に参加希望があった(図9)。「参



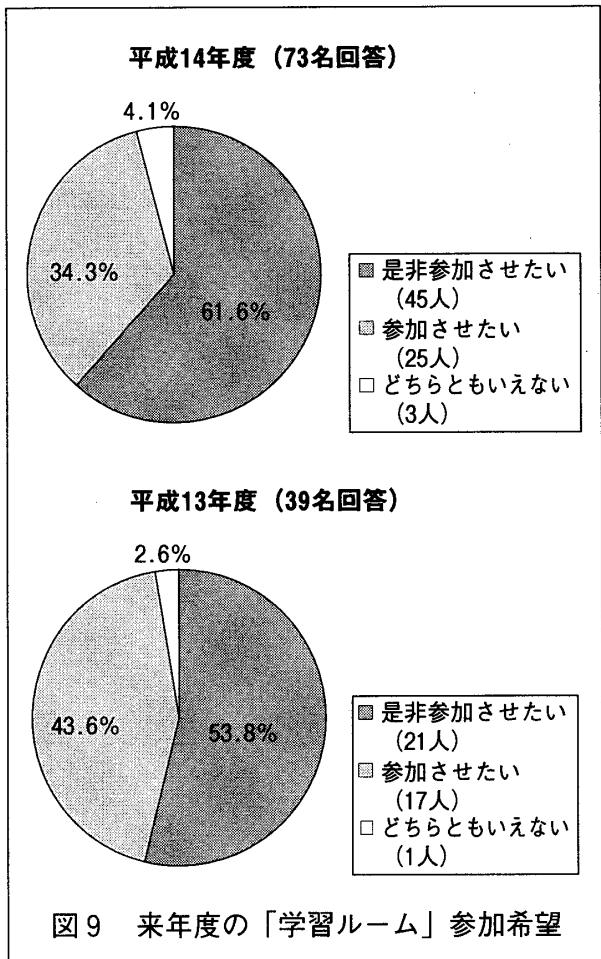


図9 来年度の「学習ルーム」参加希望

加させたくない」ではなく、「どちらともいえない」は3名(4.1%)であった。

13年度の結果と比べて、「是非参加させたい」が7.8%増えた。「是非参加させたい」と「参加させたい」を併せての割合は13年度で97.4%，14年度は95.9%とほとんど変化はみられなかった。また、どちらにも、「参加させたくない」と答えた人はいなかった。

## 5. 考察

平成13年度の保護者アンケートは39名全員から回収でき、しかも極めて高い評価が得られた。子どもの反応については、具体的に記してもらったが、<計算が速くなった>、<基礎学力が身に付いた>などの学習に関する意見よりもむしろ<学校に行くのに楽しみが増えた><帰ると『行って来たよ！』と生き生きと話す>などの楽しさに関する記載が数多くみられた。対象児をある程度絞りながら、同時にいわゆる学

習障害児に限らず、自由参加としたところが功を奏したようであった。

「学習ルーム」の継続では、保護者側と教員側ともに「継続した方がよい」と答えたことからも、平成13年度の「学習ルーム」への取り組みは高く評価されており、次年度以降への期待も大きいと感じられた。3～6年生までの拡大については、保護者側により強く「拡大を望む」という希望があったが、教員側では、拡大に関して消極的であった。これは、中・高学年の授業が遅くまで詰まっていること、学習以外にも課外活動が始まるところから時間的に余裕がなくなり、また、関係する教員の負担が低学年以上に増大すること等の要因が絡んでいるため、当然といえる。

学生ボランティアについては、否定的意見はなかったが、保護者の1/4、担任の半数近くが条件付き賛成であり、担任の方が、より校外からの参加に対しては慎重な意見を持っていた(表2)。しかし屋島小学校は研究協力校の指定を受けたとはいえ、「学習ルーム」活動の運営には学生ボランティアの参加協力が十分に有益であったことは論を俟たない。

屋島小学校がモデル事業の対象から外れた平成14年度以降の活動こそが、「学習ルーム」の真価を問われるものであるので、小学校側も積極的に取り組むこととなり、参加希望者を保護者に募ったところ、1,2年生を併せて100名を超える参加希望者が現れた。平成14年度以後はモデル事業の対象とはならないので「学習ルーム」の継続性を維持するためには学生ボランティアの参加はどうしても必要である。そこで、平成13年度アンケートの結果を踏まえた上で、学生ボランティアを増員した次第である。

「学習ルーム」の参観は、今回の新しい試みであった。保護者が実際に「学習ルーム」を参観しての印象として、「良かった」と「どちらかといえば良かった」を合計すると90%近くにも達し、高い評価を得ることができた。しかし、必ずしも肯定的な意見ばかりではなく、「どちらでもない」とした保護者にとっては、その具体的な内容をみれば、参観の印象はむしろ良くなかった。

たようであった。また、「どちらかといえば良くなかった」とした保護者の意見では「学習ルーム」の雑多な雰囲気についての印象が悪かったようであった。本来「学習ルーム」は、教師一人当たりに対する児童数が少なく、個別に対応できるということが魅力の1つであったのだが、平成14年度は、あまりに参加児童数が多すぎたため、結果的に放課後の補習授業のように受け取られたのかもしれない。

また、参観の際に注目してもらった、児童と学生ボランティアの関係についても、参観の感想とほぼ同様の結果であり、ほとんどの保護者は好印象を持って受け入れてくれたが、「どちらでもない」と「どちらかといえば良くなかった」と答えた保護者の具体的な内容を見れば、単なる採点係りのようであるとか、期待したような子どもとのふれあいが乏しいといった意見があり、少数ではあったが必ずしも良い印象は持てなかつたようである。

それでも、90%を超える保護者が「学生ボランティアの参加はよいことである」としており、学生参加には好意的であった。これは、「学習ルーム」参観の効果であり、「子どもと学生の関係」で高い評価を得たことと関連した結果といえる。また、その理由として、「教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから」という意見が昨年度より16%増え、66%にもなった。学生側も、教職を目指す上で有益な体験であったことを述懐しており、附属学校でのあらかじめ構造化された教育実習だけでなく、このような形で現場教師や子どもたちと接する機会が得られるという意味で、貴重な経験となり得たと思われる。

学生参加に条件を付けたものは13年度と比べて大きく減少した。これは無条件で参加できるという意味ではなく、「学習ルーム」参観の感想中の一部の否定的な意見にあるように、学生と子どもたちとの関係性については十分な配慮が必要であり、そのためにも教官側のスーパーバイズ体制の充実が求められる。しかしながら、アンケートの最後の項目で前年度に引き続き学習相談の希望を募ったが、心理検査を受けた上

で我々教官との面談が実施されたものは3名に過ぎず、学生ボランティアへの十分なフィードバックがなされなかつたことは反省しなければならない。

学習に困難を示す児童生徒への放課後のオープン教室の試みや教育学部学生ボランティアの現場校への派遣の試みは現在までに、全国各地で取り組まれ、成果を上げていることが報告されている。それらを受けて、学生派遣に関しては、平成15・16年度の2年間、文部科学省が、「放課後学習チューターの配置等に係る調査研究事業」として、教員志望の大学院生などを小中学校（研究協力校）に派遣することになった。もちろん、本学部も県教育委員会からの依頼を受けている。

また、特別支援教育については、平成15年3月に「今後の特別支援教育のあり方について（最終報告）」がとりまとめられ、今年度からは、文部科学省による、学習障害児およびその周辺児への支援をその骨子とする「特別支援教育推進体制モデル事業」が全国的にとり行われることになり、香川県でも過去2年間「学習障害児に対する指導方法等に関する実践研究」に取り組んだ実績を踏まえて、本年8月から開始される。ここでは、①指導のための体制整備：教育委員会の専門家チームや校内委員会を活用し、教育支援体制を整備充実する、②特別支援教育コーディネータ：校内委員会において担当教師等に指導助言を行ったり、関係諸機関との連絡調整を行う、③巡回相談：専門家による小中学校への巡回相談事業を実施する、といった内容で取り組まれることになる。これらは、まさに本プロジェクトで先んじて取り組んできたような教育支援の形態そのものである。

本プロジェクトは平成15年3月で終結したが、研究の継続性を保ち、かつ研究成果を支援活動によって現場校へ還元することを目的として、今年度から、「特別支援教育に関する研究プロジェクト」をあらたに開設する運びとなった。細々とではあるが、軽度発達障害児などへの教育支援活動は、確かな実を結びつつある。

## 謝辞

他校に先駆けての特別支援教育の実践に熱心に取り組んでくださいました高松市立屋島小学校の諸先生方、並びに本研究プロジェクトの趣旨をご理解いただき、本学部学生の派遣を快く受け入れてくださいました屋島小学校校長漆原勝弘先生に深謝いたします。

最後になりましたが、平成15年度卒業生川田泰久、森本将弘、柴田直子、平成14年度卒業生氏家久美、早朝晶子、教育学部4回生福井三恵、藤田久美、堀田亜矢子、山口毅の各氏の献身的な協力がなければ本プロジェクトは成り立ちませんでした。この場を借りて心より御礼申し上げます。

香川大学教育学部教育実践総合センターLD児及びその周辺児への教育支援研究プロジェクトチーム

(障害児教育)	繪内利啓
(障害児教育)	湯浅恭正
(教育実践総合センター)	宮前義和
(附属養護学校)	伊藤宏美
(附属養護学校)	野瀬五鈴
(附属養護学校)	小林壽江
(附属高松小学校)	辻 孝治
(附属坂出小学校 / 平成14年度転出)	尾崎定義
(附属坂出小学校)	中村美智子
(数学教育 / 平成15年度メンバー)	長谷川順一

## 参考文献

- 1) 繪内利啓、森俊博 (2002) : 小学校「学習ルーム」への学生参加. 日本 LD 学会第11回大会発表論文集, 262-265.
- 2) 繪内利啓 (2001) : 学生参加による学習困難児への支援活動. 日本 LD 学会第10回大会発表論文集, 52-55.
- 3) 繪内利啓、宮前義和、湯浅恭正 (2001) : 学習困難児に対する教育支援活動の実際. 香川大学教育実践総合研究, 3, 47-56.
- 4) 繪内利啓、宮前義和 (2000) : 学習困難児に対する教育支援活動; 実態と意識調査. 香川大学教育実践総合研究, 1, 151-164
- 5) 繪内利啓 (1998) : 各年齢層における注意欠陥 / 多動性障害 - 教育と医学の連携事例から -. 日本特殊教育学会第36回大会発表論文集, 484-485.
- 6) 特別支援教育のあり方に関する調査研究協力者会議 (2003) : 今後の特別支援教育のあり方について (最終報告). 文部科学省.
- 7) 21世紀の特殊教育のあり方に関する調査研究協力者会議 (2001) : 21世紀の特殊教育の在り方について (最終報告) -一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について-. 文部科学省.
- 8) 学習障害に関する調査研究協力者会議 (1999) : 学習障害児に対する指導について (報告). 文部省.
- 9) 香川大学教育学部附属坂出学園 (2003) : 異種校種間の教員の協力指導を通して、幼稚園・小学校・中学校の一貫教育をめざした「生きる力」を培う教育課程・指導方法の研究開発 (第3年次研究開発実施報告書). IV章 特別支援部会の取り組み. pp139-154.
- 10) 小林正幸、大熊雅士、小川原麻美ほか (1999) : 学校における大学生による学校不適応児の援助に関する研究 - 学習指導補助員制度の効果と限界 -. 東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 23, 75-87.
- 11) 読売新聞記事 (2000.1.21) : 教師のたまご、生の現場実感 - スクールボランティア、授業や部活動に補助参加 -.
- 12) 枝植雅義 (2003) : 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」の結果と今後の教育施策. LD 研究, 12, 86-89.

## 資料1 平成13年度保護者用アンケート用紙

保護者の皆さまへ／「学習ルーム」を利用についてのアンケート

〔1〕お子さまが「学習ルーム」に参加されたのは、どのようなきっかけからでしょうか？

- 以下の項目から選び、○印をつけてください（複数回答可）
- ア) 子供が参加したいと言ったから
- イ) 担任されたから
- ウ) 良い試みだと思ったから
- エ) 学習を補いたいと思ったから
- オ) 楽しく学習できるのではと思ったから
- カ) レベルの高い学習も提供されると聞いたから
- キ) その日が空いており埋めるのに都合が良かったから
- ク) 学年やクラスの域を超えて学ぶことで、友達とのつきあいができると思ったから
- ケ) このような取り組みの実現を待っていたから
- コ) その他（具体的にお書きください：）

〔II〕お子さまが「学習ルーム」に参加して、どのような印象をもたれましたか？

以下の項目から選び、○印をつけてください

- ア) 保護者としては、参加させて
- a 良かった      b どちらかといえば良かった      c どちらでもない
- d どちらかといえば良くなかった      e 良くなかった

できれば具体的にどのように良かったか、あるいは良くなかったかについてお書きください

イ) 子供の反応は

- a 良かった      b どちらかといえば良かった      c どちらでもない
- d どちらかといえば良くなかった      e 良くなかった

できれば具体的にどのように良かったか、あるいは良くなかったかについてお書きください

〔V〕その他、学習ルームについて何かご意見ござ希望がありましたら是非お書きください

〔V〕現在一回について15-20人程度の子どもたちが学習ルームを訪れております。教師側の人手が足りない部分を、香川大学教育学部の4年生が学生ボランティアとして参加協力してくれておりますが、これについてお伺いします（○印をおつけください）。

- a) 学生ボランティアの参加はよいことである
- b) 条件次第では、学生ボランティアが参加することはよいことである
- c) 学生ボランティアは参加させるべきではない

★「a よいことである」と答えた方に伺います。

その理由を教えてください（複数回答可）。

- (1) 教える側の人員が増え、細かい指導ができるから
- (2) 教育学部の学生があるので、年齢が近く、子供にとって親しみやすいから
- (3) 教育学部の学生があるので、子供の教育や対応がうまくできると思うから
- (4) 教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから
- (5) 人件費がかからないから
- (6) その他（具体的にお書きください：）

★「b 条件次第では参加することはよいことである」と答えた方に伺います。

その条件を教えてください（複数回答可）。

- (1) 子供の成績などの個人情報を十分に守ること
- (2) 大学生というだけでなく、教育学部の学生であり、かつ教育実習を受けたものの部外者であるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと
- (3) 意欲や資質のある大学生が参加すること
- (4) あくまでも主体は教師であり、学生には補助的な役割を果たすこと
- (5) 教師だけでやるべきである
- (6) その他（具体的にお書きください：）

★「c 参加させるべきではない」と答えた方に伺います。

その理由を教えてください（複数回答可）。

- (1) 教職員ではないので
- (2) 大学生の指導能力には信頼ができないので
- (3) 意欲や資質のない大学生が参加したときに困るから
- (4) 成績などの個人情報が外部に漏れるおそれがあるので
- (5) 事故・事件が生じたときの責任の所在が不明だから
- (6) 教師だけでやるべきである
- (7) その他（具体的にお書きください：）

〔III〕現在は1年生と2年生に対して「学習ルーム」を解放しておりますが、次年度の取り組みとして（○印をおつけください）

ア) 「学習ルーム」の整備については

- a 継続した方がよい      b どちらともいえない      c 継続は必要としない

差し支えなければ理由をお書きください／

- イ) 「学習ルーム」の3年生から6年生までの拡大については  
　a 拡大を望む      b むしろ高学年に重点を置いてほしい      c 現状のままよい  
　d どちらともいえない      e 廃止した方がよい

ウ) 「学習ルーム」を継続するとした場合、どの程度の回数を望まれますか？  
　a 毎日      b 週3～4回程度      c 週1～2回程度

〔VI〕来年度も「学習ルーム」が継続されれば、お子さまを参加させたいですか？

- a) 是非参加させたい
- b) 参加させたい
- c) どちらともいえない
- d) 参加させたくない

ご協力ありがとうございました。この結果をもとに来年度の活動に取り組みたいと存じます。

## 資料2 平成13年度教師用アンケート用紙

担任の先生方へ／「学習ルーム」活用についてのアンケート

〔I〕クラスの子どもたちが「学習ルーム」に参加したのは、どのようなきっかけからでしょうか？

- 以下の項目から選び、○印をおつけください。（複数回答可）
- ア) 子供が参加したいといつたから
- イ) 管理職や、障害児学級の担任に紹介されたから
- ウ) 担任として良い試みだと思って、すすめた
- エ) 担任としてその子の学習を補いたいと思ってすすめた
- オ) 楽しく学習できるのではと思ってすすめた
- カ) 研究指定校になっているので
- キ) 保護者が希望したから
- ク) 学年やクラスの枠を超えて学ぶことで、友達とのつきあいができると思ったから
- ケ) このような取り組みの実現を待っていたから
- コ) その他（具体的にお書きください：）

〔II〕子どもたちが「学習ルーム」に参加して、どのような印象をもたらしましたか？

以下の項目から選び、○印をおつけください

- ア) 担任としては、参加させて
- a 良かった　　b どちらかといえば良かった　　c どちらでもない
- d どちらかといえれば良くなかった　　e 良くなかった

できれば具体的にどのように良かったか、あるいは良くなかつたかについてお書きください

イ) 子供の反応は

- a 良かった　　b どちらかといえば良かった　　c どちらでもない
- d どちらかといえれば良くなかった　　e 良くなかった

できれば具体的にどのように良かつたか、あるいは良くなかつたかについてお書きください

イ) 「学習ルーム」の3年生から6年生までの拡大については

- a 拡大したほうがよい　　b もしろ高年に重点を置くべきである
- c 現状のままよい　　d どちらともいえない　　e 廃止した方がよい

理由をお書きください／

ウ) 「学習ルーム」を継続するとした場合、どの程度の回数を望まれますか？

- a 毎日　　b 週3-4回程度　　c 週1-2回程度

〔V〕その他、学習ルームについて何かご意見ご希望がありますなら是非お書きください

〔V〕現在一回について15-20人程度の子どもたちが学習ルームを訪れております。教師側の人手が足りない部分を、香川大学教育学部の4年生が学生ボランティアとして参加協力してくれておりますが、これについてお問い合わせします（○印をおつけください）。

a) 学生ボランティアの参加はよいことである

b) 条件次第では、学生ボランティアが参加することはよいことである

c) 学生ボランティアは参加させるべきではない

★「a) よいことである」と答えた方にお伺いします。

その理由を教えてください（複数回答可）。

(1) 教える側の人員が増え、細かい指導ができるから

(2) 教育学部の学生があるので、年齢が近く、子供にとって親しみやすいから

(3) 教育学部の学生があるので、子供の教育や対応がうまくできると思うから

(4) 教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから

(5) 人件費がかからないから

(6) その他（具体的にお書きください：）

★「b) 条件次第では参加することはある」と答えた方にお伺いします。

その条件を教えてください（複数回答可）。

(1) 子供の成績などの個人情報を十分に守ること

(2) 大学生というだけではなく、教育学部の学生であり、かつ教育実習を受けたもの

(3) 部外者があるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと

(4) 学生が補助的な役割を果たすだけであればよい

(5) 意欲や資質のある大学生が参加するのであればよい

(6) その他（具体的にお書きください：）

★「c) 参加させるべきではない」と答えた方にお伺いします。

その理由を教えてください（複数回答可）。

(1) 教職員ではないので

(2) 大学生の指導能力には信頼ができないので

(3) 意欲や資質のない大学生が参加したときに困るから

(4) 成績などの個人情報が外部に漏れるおそれがあるので

(5) 事故・事件が生じたときの責任の所在が不明だから

(6) 教師だけでやるべきであるので

(7) 児童と大学生の両方の指導が必要になるかもしないので

(8) その他（具体的にお書きください：）

〔VI〕来年度も「学習ルーム」が継続されれば、子どもたちを参加させたいですか？

- a 是非参加させたい　　b 参加させたい　　c どちらともいえない
- d 参加させたくない

ご協力ありがとうございました。この結果を来年度の活動の参考にしたいと存じます。

### 資料3 平成14年度保護者用アンケート用紙

保護者の皆さまへ／「学習ルーム」利用についてのアンケート  
★必ずしもお子さまの学年（1年・2年）をお答えください（〇で囲んでください）。

[I] お子さまが「学習ルーム」に参加されたのは、どのようなきっかけからでしょうか？  
以下の項目から選び、〇印をおつけください（複数回答可）

- Ⓐ 子供が参加したいと言ったから
- Ⓑ 担任に紹介されたから
- Ⓒ 良い試みだと思ったから
- Ⓓ 学習を補いたいと思ったから
- Ⓔ 学習できるのではと思ったから
- Ⓕ 楽しく学習できるのではと思ったから
- Ⓖ 小学生の学力低下のおそれが問題として取り上げられているから
- Ⓗ その曜日に、特に習い事などの予定がなかったから
- Ⓘ 学年やクラスの成績を超えて学ぶことができたから
- Ⓚ その他（具体的にお書きください）

[II] 本日「学習ルーム」を参観して、どのような印象をもたれましたか？  
以下の項目から選び、〇印をおつけください

- ア) 保護者としては、
- Ⓐ 良かった
  - Ⓑ どちらかといえば良かった
  - Ⓒ どちらでもない
  - Ⓓ どちらかといえば良くなかった
  - Ⓔ 良くなかった

できる限り、具体的に何がどのように良かったかについてお書きください

- イ) ボランティアの学生と子供との関係は
- Ⓐ 良かった
  - Ⓑ どちらかといえば良かった
  - Ⓒ どちらでもない
  - Ⓓ どちらかといえば良くなかった
  - Ⓔ 良くなかった

できる限り、具体的に何がどのように良かつたかについてお書きください

- イ) 「学習ルーム」をよりよいものにしてゆくためには様々な課題があります。そのためにはどのような取り組みが必要と思われますか？ご意見をお聞かせください。

[IV] 現在、非常に多くの子どもたちが学習ルームを訪れております。より個別に対応してくれておりますが、これについてお伺いします（〇印をおつけください）。

- a 学生ボランティアの参加はよいことである
- b 条件次第では、学生ボランティアが参加することはよいことである
- c 学生ボランティアは参加させるべきではない

★「a よいことである」と答えた方にお伺いします。

その理由を教えてください（〇印をおつけください。複数回答可）。

- (1) 教える側の人員が増え、細かい指導ができるから
- (2) 教育学部の学生があるので、年齢が近く、子供にとって親しみやすいから
- (3) 教育学部の学生があるので、子供の教育や対応がうまくできると思うから
- (4) 教員志望の大学生が現場を知る機会になると思われるから
- (5) 人件費がかからないから
- (6) その他（具体的にお書きください）

★「b 条件次第では参加することはよいことである」と答えた方にお伺いします。

その条件を教えてください（複数回答可）。

- (1) 子供の成績などの個人情報を十分に守ること
- (2) 大学生というだけでなく、教育学部の学生であり、かつ教育実習を受けたもの
- (3) 部外者であるので、問題や事件が生じたときの責任の所在を明確にしておくこと
- (4) あくまで主体は教師であり、学生には補助的な役割を果たすこと
- (5) 意欲や資質のある大学生が参加すること
- (6) その他（具体的にお書きください）

★「c 参加させるべきではない」と答えた方にお伺いします。

その理由を教えてください（複数回答可）。

- (1) 教職員ではないので
- (2) 大学生の指導能力には信頼ができないので
- (3) 意欲や資質のない大学生が参加したときに困るから
- (4) 成績などの個人情報が外部に漏れるおそれがあるので
- (5) 事故・事件が生じたときの責任の所在が不明だから
- (6) 教師だけでやるべきであるので
- (7) その他（具体的にお書きください）

[V] 来年度も「学習ルーム」が継続されれば、お子さまを参加させたいですか？

- a 是非参加させたい
- b 参加させたい
- c どちらともいえない
- d 参加させたくない

お子さまの氏名が必要となります。右にご記入してください。  
児童氏名（\_\_\_\_\_）

[VI] 昨年度は、保護者の方々の希望があれば、お子さまの学習相談や学習検査とその評価、香大の教官の面接および指導などを行いましたが、今年度も、実施したいと存じます。お子さまについて学習相談のご希望があれば〇印をおつけください（複数回答可）。なお相談希望については、学校側からの連絡上、

- a 心理検査や学習検査を受けさせたい
- b 担任と相談したい
- c 学習ルームの教師と相談したい
- d 学習について専門家（香大的教官など）の相談を受けたい
- e その他の先生（\_\_\_\_\_先生）と相談したい

ご協力ありがとうございました。この結果をもとにさらに活動に取り組みたいと存じます。